2025 年 7 月 10 日

～毎月 10 日は人権を考える日～

「学んだことを伝えていく」ことで差別をなくそう

３月末の今治市・西条市の山火事には、びっくりしました。火への恐怖を感じるとともに、自然への畏敬の念を感じずにはいられませんでした。自然を人間が変えることはできません。自然を人間がコントロールできるなんてことは、あり得ません。自然の前では、私たち人間は無力です。しかし、差別は人間が作り出すものです。だからこそ、私たちの力によってなくすことができると考えています。

人権問題について学習する機会は、以前に比べると多いと思います。正しく行動するためには、正しい知識を身につけなければなりません。何が正しいかを判断する力が必要です。広島で被爆された方から、こんな話を聞きました。原爆投下の捉え方は、日本とアメリカではずいぶん違うそうです。アメリカでは、早く戦争を終わらせるためには、原爆投下は必要なことであって、そんなに悪いことではないと子どもたち（高校生）は教わっているそうです。ところが、西条市からアメリカを訪問した、２歳の時に被爆した中学校の教師から、原爆投下の後の広島の町の様子、人々の様子を聞いて、とってもびっくりしたそうです。翌年に西条市にやってきたそのうちの数名の高校生は、広島の平和記念公園を訪れ、原爆の子の像に全校生徒で折り上げた千羽鶴を捧げたのです。本当のことを知り、自分に何ができるかを考え行動したのです。その翌年、アメリカを訪問したその教師は、今度は全校生徒の前で話をすることになったそうです。このことからも、正しく理解することの大切さがよく分かります。

学習したことは、そのままにしておくと、やがて薄れていきます。学習したことを活かすにはどうすればいいでしょうか。学んだことを、どなたかに伝えていくのはいかがでしょうか。身近なところを考えれば、まず家族が思い浮かびます。そこから、友達、知人、ご近所さんと広がっていくのではないでしょうか。そうすることによって、自分の考えがはっきりとしてきますし、他の方の考え方を聞くことができて思考が広がります。話合いになれば、より考えが深まっていきそうです。原爆投下の話を聞いたアメリカの高校生は、まさに伝え合ったのではないかと想像します。そして、自分で調べてみようと行動に移したのでしょう。その結果、千羽鶴を折ることを全校生徒に提案し、それを西条の中学校・高校を訪問する代表者に託したのだと思います。

私は、学んだことを家族に伝えているだろうか。そもそも家族と話をしているだろうか。これではいけません。もっともっと家族と話をし、家族のことを知らなければと反省します。家族の考え方を把握するとともに、自分の考えを分かってもらえるように話をしていかなければと思います。まずは、４月、５月、６月の「市民意識調査の報告から」を話題にしてみませんか。

西条市人権教育協議会　　西条市人権擁護課